

平成30年度「学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	姫路市教育委員会
研究課題	義務教育学校における、地域とともに進める地域学習カリキュラムの作成及び実践
研究のねらい	<p>学校運営協議会を中心とした学校と地域との協働により、義務教育学校としての9年間を一貫する特色ある「探究」的な学習カリキュラムを作成するとともに、その実践を通じて、地域への誇りと愛情をもち、将来、世界で活躍できる人材の育成を目指す。</p>
研究の概要	<p>本研究は、本年度、義務教育学校として開校した「姫路市立白鷺小中学校」で行った。</p> <p>白鷺学校運営協議会の委員代表と教職員の代表で構成するカリキュラム作成協議会において、保護者や地域住民の意見を聴取し、義務教育学校として9年間で進めるカリキュラムについて2つの方針を決定した。</p> <p>1つ目は、複眼的に探究し続ける子供を育むために、初年度は、各学年1単元を取り上げて探究単元を作成し、次年度以降、それを積み重ねていくこと。</p> <p>2つ目は、地域人材を含む地域資源を活用することによって、郷土への愛着と将来的な地域貢献につなげるカリキュラムを作成することである。</p> <p>そこで、学校運営協議会の下部組織である4部会（生活・学習・交流・環境）において、カリキュラムに位置付けられそうな取組や、本校の児童生徒にとって必要な取組について、これまで行ってきた学校行事や地域交流との整合性も図りながら意見を出し合い、協議を進めた。そして、4部会のコーディネート会議において、それぞれの部会から出た意見の共有・調整を図りながら、カリキュラム作成の中心となる学習部会へとつないだ。</p> <p>学習部会においては、専門職である教職員が地域住民と協議を深めながらカリキュラム作成を進めた。その結果、カリキュラムに示した授業における講師や、授業準備としての環境整備など、より主体的な支援を多くの地域住民の方からいただくことができた。</p>
研究の成果	<p>本研究に着手する前の研究のねらいは、「地域とともにある学校づくり」の観点から、地域を意識し過ぎた内容に偏っていた。しかし、カリキュラム作成協議会で意見交換を行う中で、「郷土への愛着心育成の視点は大切であるが、そこに留まるのではなく、将来的に世界で活躍できる人材をこの地域から排出する視点を大切にしたい」という意見に集約された。このことによって、学校・保護者・地域住民の願う「目指す子供像」が共有され、それぞれが「我がこと」として主体的に関わる体制でカリキュラムづくりをスタートさせることができた。</p> <p>また、コーディネート会議でカリキュラムについて協議する中で、地域との協働関係が深まり、地域住民からカリキュラムの具体を深める客観的な意見が出て、効果的な授業を行うための人材活用（確保）など、「授業」に主体的に関わっていただけようになった。</p> <p>本年度の取組については、これまでの教育活動と大きく変わったり、全く新しい取組を始めたようなものではないが、カリキュラムづくりという、これまでであれば学校だけで取り組んできたことを、スタート時から家庭・地域の参画を得て、多角的な視点を持って進めてこられたこと、そして、家庭・地域に「我がこと」として教育活動へ主体的に関わり、取組の充実が図れたことは、本研究が契機となった大きな成果と言える。結果として、「地域とともにある学校づくり」へとつながっていると考えている。</p> <p>「郷土への愛着心育成」や「探究」といったねらいに関しては、本年度の全国学力学習状況調査（平成30年4月実施）と、本市独自の児童生徒意識調査（平成31年1月実施）における同一質問項目で比較した結果、地域住民との関わりや地域への愛着心を示す項目や、探究につながる主体的に学ぶ姿勢を示す項目において、概ね数値が上昇しており、児童生徒（6年生・9年生）の意識に明らかな変容が見られた。このことは、少なからず、本年度地域とともに進めた取組による効果だととらえている。</p>
本件 問い合わせ先	姫路市教育委員会 学校指導課 小中一貫教育推進係（電話：079-221-2120）